

シラバス参照

科目名	協創力実践演習
配当年次	3年次
開講期間	秋学期
単位数	1
担当教員	上田 秀雄(ウエダ ヒデオ)
期間・曜日・時限・教室	秋学期 金曜日 3時限 その他

※	本科目は、大学および学部もしくは学科のディプロマポリシーの1と2の達成に必要な科目です。
授業の目的・目標	①授業の概要:この授業は、地域や社会の状況をグループメンバーとともに考察し、メンバーそれぞれが有する専門性を活かして、新たな提案を行う授業です。新たな製品や仕組み、現存するさまざまな課題の解決策の提案を通じて、異なる分野の専門性を学んできた多様な人たちの相互理解を深め、「協創」の意義を理解し、実践する力を高めます。 ②授業の目的:自身が積み重ねてきた学修内容の社会的な意義を自覚し、協創する仲間とそれを伝え合いながら、協力的な姿勢をもって新たな社会を築き、新たな価値を創り出していくと心構えを萌芽させ、将来にわたる自身の専門家としての思考と行動の基盤を構築することを目的とします。 ③修得できる力:さまざまな専門性を学ぶメンバーとさまざまなニーズや課題の本質に向き合い、解決策や新たな提案などを考えることにより、自らを深く振り返る力(省察力)、相互理解・相互尊重の態度、課題を提起する力、他者と協力的に交流する力を基礎として幅広い視野で課題を俯瞰し、解決に導いていく力、新たな価値を創造する力が醸成されます。また、地域や社会での自身の活躍を具体的にイメージできるようになります。(汎用的技能、態度・志向性、キャリア形成) ④授業の到達目標:(1)メンバーそれぞれの専門性を生かすことで解決に導くことができる地域や社会のニーズや課題を発見すること、(2)多角的な視点に基づいて、課題解決のための取り組みの優先度、新しいものを作っていくときの手順などを考えられること、(3)多様なメンバーの強みを生かしながら新しい提案を導いてきたプロセスを第三者が理解できるように示すことを目標とします。 ⑤実務経験と授業内容との関連:なし ⑥地域に係る科目について:地域で活動する企業や自治体が抱えるニーズや課題の発見・解決に取り組みます。
準備学習等の指示	協創力体験演習Ⅰで学んだ「心理的安全な空間」を作る、「多様な考え方」を受け入れる、「対話のスキル」を活用するといった協創の土台となる事柄、および協創力体験演習Ⅱで学んだ課題解決に向けた事例分析、提案作成のためのチーム活動プロセス、第三者が理解しやすいプロダクトの作成などについて確認するようにしてください。 予習・復習などの自主学習時間:教室で取り組む時間以外に、28時間程度の自主学習時間が必要です。各自で協創の土台となる事柄を確認するとともに、自身の専門性をチームメンバーとの協創に生かせるよう、必要に応じて内容を整理し、図書館やグループ学習スペースなどで調べものや議論をすること、オンラインでの情報交換や各自で行う調べものなど、インターネットの環境も上手に利用して、チーム活動を円滑に進められるよう自主活動時間を活用してください。
講義スケジュール	■1回目 【テーマ】オリエンテーション&協創力の確認 【到達目標】本授業の目的・進め方・評価方法がわかる。協創力の観点がわかる。チームで対話できる状態をつくれるようになる。 【準備学習】配布資料を読み、質問を1つ用意する。過去の協創学習の経験を振り返りメモする。 【特記事項】ガイダンス、協創力レクチャー、企業・プロジェクト概要共有、グループ編成・アイスブレイク、連絡手段・役割の仮決め。 ■2回目 【テーマ】現場理解の準備:ドラッグストアの役割理解&インタビュー設計 【到達目標】ドラッグストア/薬局の役割がわかる。地域に根差した仕事の意義がわかる。Zoomインタビューで聞くべき質問を設計できるようになる。 【準備学習】ドラッグストアの機能(調剤・OTC・健康支援・地域連携)を調べ要点3つ。聞きたい質問を個人で3つ作る。 【特記事項】ゲストトーク(仕事内容・地域貢献等)、動画視聴の観察観点づくり、Zoomインタビューの質問統合、役割分担(司会・質問・記録・時間管理等)。 ■3回目 【テーマ】疑似フィールドワーク:店舗動画視聴+Zoomインタビュー(観察・聞き取り) 【到達目標】動画・インタビューから事実を記録できるようになる。利用者・従業員・店舗運営の視点で課題の兆しを見つけられるようになる。根拠(場面・発言)とセットで説明できるようになる。 【準備学習】質問の最終確認(優先順位・聞き方・追加質問案)。オンラインマナーと個人情報配慮を確認する。 【特記事項】店舗の様子を動画で視聴し、観察記録を取る。続いてZoomで現場担当者にインタビューを行い、回答要点を整理する(録画・記録の扱い)は授業方針に従う。 ■4回目 【テーマ】課題発見ワークショップ 【到達目標】観察・インタビュー結果を整理し、課題を言語化できるようになる。課題の構造(原因・背景・制約)がわかる。取り組む課題を根拠をもって決定できるようになる。 【準備学習】第3回の記録から「気づき」5つと根拠(場面・発言)を準備する。「なぜ?」を3回繰り返し原因仮説を作る。 【特記事項】共有→クラスターリング→課題候補抽出→課題定義(対象・困りごと・原因仮説・制約)→チーム課題決定。 ■5回目 【テーマ】アイデア創出ワークショップ(発想・絞り込み・プロトタイプ) 【到達目標】課題に対する解決アイデアを発想できるようになる。評価軸で比較し絞り込めるようになる。簡易プロトタイプとして形にして説明できるようになる。 【準備学習】参考施策・事例を各自1つ探し「使える点」をメモする。想定利用者(ペルソナ案)を1つ作る。 【特記事項】プレスト→選定(実現性・効果・費用・現場負担等)→プロトタイプ作成→グループ相互ミニ発表。 ■6回目 【テーマ】提案のブラッシュアップ(中間発表と改善)

	【到達目標】中間発表で提案をわかりやすく伝えられるようになる。フィードバックを根拠に改善できるようになる。根拠（動画・インタビュー・資料）を補強して最終資料に整えられるようになる。 【準備学習】「課題→根拠→提案→期待効果」を1枚に整理する。想定質問5つと回答案を準備する。 【特記事項】中間発表、FB、改善点整理、追加調査（必要なら追加質問を作る）、最終発表資料作成、リハーサル。 ■7回目 【テーマ】最終発表会 & 振り返り 【到達目標】根拠を示しながら提案を説明できるようになる。コメントを踏まえて提案の強み・改善点がわかる。協創の過程を振り返り学びを言語化できるようになる。 【準備学習】最終資料完成、役割（発表・質疑）決定、練習。最終振り返りの下書きを用意する。 【特記事項】最終発表、講評・質疑、授業全体のまとめ、個人振り返り共有。
教科書	指定しない
参考文献	担当する課題に関する書籍、webサイトの情報など 引用した書籍、webサイトなどは、発表に際してプロダクトに記載しておくこと
授業の方法	この講義は主として、 1. 調査 2. グループディスカッション 3. プロダクト作成 4. プレゼンテーション 基本対面で実施しますが、紀尾井町キャンパスの学生が参加する場合には、ハイフレックス型でオンライン併用で実施します。 発表会において、フィードバックを行います。 プレゼンテーションにおいてPCを利用します。 LMSとして、WebClassおよびMicrosoft Teamsを利用します。
成績評価方法	【評価方法】 ①グループ活動の観察、②プロダクト作成と発表、③グループにおける合意形成、④授業ごとの提出課題、について、単位認定ルーブリックを用いて評価し、総括的評価を行います。適宜各チームや個人に対してフィードバックすることで形成的評価を行います。また、全授業終了後にJUポートフォリオに掲載してある全学共通ルーブリックを用いて自己評価を行います。 【評価割合】 成績評価ルーブリックを用いた評価100% 【評価基準】 単位認定ルーブリックの全ての観点において(2)以上である場合に単位を認定します。成績評価に用いるルーブリックは、シラバスに添付されているファイルから確認してください。 S評価: 全ての観点において(3)以上かつ(4)が2つ以上あるもの A評価: 全ての観点において(3)以上である、または、 全ての観点において(3)以上かつ(4)が1つあるのもの B評価: いずれか3つの観点において(3)以上かつ1つの観点において(2)があるもの C評価: 全ての観点において(2)以上であるが、S評価、A評価、B評価とにならないもの
オフィスアワー	
居室	
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	協創力実践演習 ルーブリック.pdf